

佐々野好継

(長崎大学)

目的 住居は、それぞれの内部空間で構成されているのではなく、玄関空間との組み合わせを中心にした型で構成されていることを明らかにすることです。

方法 1 長崎県諫早市にある、1994年建築の庭付き一戸建て住居

(2階建て)の平面図を素材にします(図1)。2-1住居内部のそれぞれの空間を円(O)で、出入口を線(—)で、概念化しグラフ図(図1)と呼びます。なお、玄関空間は●に×で表現し、縁側などの

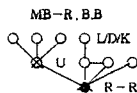
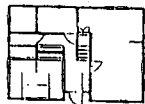


図1 素材・図

通路のために空いている空間は、●で表現することにします。2-2 玄関空間を含む組み合わせ空間/非空間に分割し、組み合わせ空間の型を抽出します。

結果 1階は、間型と1室型(接客領域)の2領域で構成されています。間型は、「L/D/K—洗面所(日常生活/サービス領域)」の2間と玄関の空で構成されています。2階は、「夫婦寝室, 2子供室」の3つの室で構成されている室型(プライベート領域)です。間型(+室)×1室型×室型(2F)の住居と整理されます。